



目白研心中学校・高等学校

令和8年度 同窓会会報 新版第4号 (通号35号)



撮影協力：目白研心中学校・高等学校 写真部
桐陽祭出展作品

同窓のご縁に 感謝して



会長 稲葉 典恵

同窓生の皆様には、お元気でお過ごしのことと存じます。日頃より母校並びに同窓会の活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

この春も母校から253名の卒業生が新たな一歩を踏み出しました。卒業式では、成長した立派な姿で巣立っていく生徒たちに頼もしさを感じるとともに、胸が熱くなる思いがいたしました。特に答辞を読んだ男子生徒の言葉には、これまでの学校生活への思いが込められており、心に残る式となりました。

続く入学式では、まだあどけなさの残る高校329名、中学95名の新入生たちが、緊張した面持ちで母校の門をくぐりました。その初々しい姿を目にすると、この季節はいつも心が少し若返るような気がいたします。この少子化の時代に、これほど多くの生徒が入学されたことは、学校の発展と日々の努力の積み重ねの証であると感じております。

一方、世界に目を向けますと、今なお戦争が続いている地域もあり、心が痛みます。遠い国の出来事とはいえ、物価高騰など、さまざまな形で私たちの生活にも影響が及んでおります。同窓生の中には戦争を経験された方も多くいらっしゃると思います。そのお話を伺うたびに平和の尊さを改めて感じ、一日も早く世界に平和が訪れることを願っております。

さて、本年も同窓会では、昨年引き続き大学生の卒業生が中心となり、桐陽祭にてコーヒESHOP「ハンドレッドコーヒー」を出店する予定です。卒業生たちはハンドドリップ講

習会などを行い、準備と練習に励んでおります。ぜひ多くの皆様にお越しいただき、若い同窓生たちへ温かいエールを送っていただけましたら幸いです。

また、昨年の会報では野球部をご紹介いたしました。その後、野球部創設に関わられた長沼研人様とご連絡を取ることができ、当時のお話を伺う機会をいただきました。今回、「同窓生からのお便り」としてご寄稿いただいております。当時のご苦労や思いが伝わる大変貴重なお話であり、深く心に残りました。

さらに今回の会報では、海外での生活が長かった亀井まさえ様より現在のご様子について、また教職員としてご活躍されている松澤優花様からもお便りをご寄稿いただきました。ご多用の中、貴重なお話をお寄せくださいましたことに、改めて御礼申し上げます。

現在の野球部も着実に力をつけており、今後の活躍がますます楽しみです。また、ラクロス部やチアリーディング部など、多くの部活動が優れた成果を上げており、母校の生徒たちが輝かしい活躍を見せてくれていることを大変嬉しく思っております。私たち同窓生も、これからも後輩たちを応援してまいりたいと思います。

同窓会の活動を通して、多くの方々とお話する機会をいただいております。そのたびに、さまざまな人生や考え方に触れ、多くの学びをいただいております。年齢や歩んできた時代は異なっているけれども、それぞれの経験がその方の人生を形づくっているのだと感じると、大変ありがたご縁であると感じております。

百年を超える歴史を持つ母校の同窓会だからこそ、このようなつながりが生まれているのだと思います。ぜひ「いつか」ではなく、今年こそ桐陽祭や母校・目白研心へ足をお運びください。きっと新たな発見や出会いがあることと思います。皆様とお会いできますことを楽しみにしております。

今後とも同窓会への変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

目白研心は 引き続き順調です



学校法人目白学園 理事長 尾崎 春樹

同窓生の皆さまには、変わりなくお過ごしでしょうか。

例年同様、この原稿を用意している数日前に、目白研心中学校・高等学校の運動会が代々木第一体育館で行われました。今年も午後から観戦することができましたが、部活動対抗リレーの激しいデッドヒートに感動し、女子の騎馬戦で引き分けに終わった時の、生徒が互いに小さく手を振ってバイバイする可愛らしい姿に癒されるなど、学園の仕事をするうえで、一年で一番楽しい時を過ごすことができました。

さて教育面では、高校が「英語の目白」だけでなく「理系も目白」を目指して本年からグローバル・サイエンス・コースをスタートさせました。グローバルとサイエンスの両方を伸ばすとともに、データサイエンスと理数探求を組み合わせた活動を目指す新しいコースですが、募集も順調で、いよいよこれからしっかりした活動を目指していきます。

さらに、来年度からは、現在のSECコースを刷新して新たにグローバル・コミュニケーション・コースを発足させます。このコー

スでは、英語力やコミュニケーション能力を伸ばしつつ、国内・海外での進学や活躍を視野に入れたグローバルな人材の育成を目指します。そのため、海外と国内の両方の大学に出願ができるグローバル併願制度を取り入れたり、「世界事情」や「プレゼンテーション&ファシリテーション」など、既存の教科にない授業を行い、さらに、海外研修も2回実施します。

近年の目白研心中学校・高等学校の文武にわたる活躍が、保護者や受験生にも大いに魅力を伝えていることは間違いなく、東京都や国による授業料無償化政策と相まって、志願者が増えています。また、入学状況については、中高合わせて1144名となり、定員を上回る入学者を迎えることとなりました。

また、大学進学実績では、2025年度は、前年度より卒業生が100名ほど少なかったにもかかわらず、国公立や早慶上智、ICUの合格者が同程度であったほか、いわゆるGMARCH（学習院、明治、青山、立教、中央、法政）の合格者が105名、さらに、最近生徒に人気の成成明学獨国武（成蹊、成城、明治学院、獨協、國學院、武蔵）の合格者が90名と大きく伸びています。

急激に進む少子化傾向に負けず、目白研心は、吉田校長の下、先生方の熱心な指導により、力強く前進を続けています。引き続き、温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

親から子へ～ 繋がる母校のバトン



校長 吉田 直子

同窓会のみなさま、こんにちは。みなさまにはいつも温かく母校を応援していただき、心より御礼申し上げます。

さて、本年度は4月7日に稲葉会長ご臨席のもと入学式を挙行し、中学校95名、高等学校329名、計424名の新入生が目白研心生としての第一歩を踏み出しました。今年の新入生の男女比は、中学:男子48名、女子47名、高校:男子180名、女子149名と、中高ともに男子の人数が女子を上回りました。学校全体では、男子567名、女子577名と男女ほぼ同数で、総生徒数は1,144名。共学化18年目にして最大の在籍人数となり、校内は活気に満ちています。また共学化したことで、お子さんの性別を問わず進学先として母校を選んで下さるケースが増え、何人もの卒業生が保護者の立場で学校を支えてくれています。この入学式の後も卒業生の1人が校長室に立ち寄り、「これからは保護者として学校のために貢献します。」と言ってくれました。卒業から20数年、保護者として戻ってきてくれたことで、親から子へと母校のバトンが繋がるのだなと思い、感無量でした。

先日野球部の試合を応援に行った際には、現在野球部員の保護者である卒業生3人が声をかけてくれました。女子校時代のあれこれや懐かしい先生方の思い出トークで盛り上がり、さらに試合も目白研心のコールド勝ちで、心から楽しい1日となりました。

私学には学校ごとに培われた「文化」がありますが、多感な中高時代に本学園の文化の中で育まれた「目白魂」が、何十年かの歳月を経てそのお子さん、お孫さんにもまた育まれ繋がっていく。私学の存在意義をこれほど感じさせてくれることはありません。また学校文化の伝承と並行して、社会の変化に応じて学校教育の内容も変化を遂げていかなければなりません。本校でも今年度から、英語をToolとしてグローバルに活躍できる理系人材の育成を目指す「グローバル・サイエンス・コース(GSC)」が高校でスタートしました。理数探究や一步進んだ情報の授業など、25名の1期生は新しい学びに心を躍らせています。さらに来年度は、現在のスーパー・イングリッシュ・コース(SEC)を改編し、「グローバル・コミュニケーション・コース(GCC)」を開設します。SECで必修のNew Zealand短期留学や独自のユニークな授業は継続しつつ、英語力のみならず発信力の育成にも注力するコースとなりますのでご期待下さい。

創立103年目の目白研心は、「伝統」と「革新」の両輪で教育活動を行ってまいります。学校ホームページでも随時教育実践や生徒の活動実績を発信してまいりますので、どうぞご覧下さい。そして引続き最強の応援団として母校を見守っていただきますよう、よろしくお願いいたします。

令和8年度総会の開催

同窓会会則第13条により、「令和8年度目白研心中学校・高等学校同窓会総会」を会報による紙上総会とさせていただきます。

●令和7年度事業報告

- 4月 令和6年度決済報告書、
予算案作成、会計監査、
会報原稿依頼
- 4月7日 入学式に会長参列
- 4月10日 入学式の模様をHPにアップ
- 4月26日 大学同窓会30周年記念誌の取材
- 6月5日 同窓会報の原稿を印刷会社へ入稿
- 6月 会報校正作業
- 7月10日 同窓会会報新版第3号を発送
会報発送の告知をHPにアップ
- 7月22日 同窓会会報をHPにアップ
- 9月4日 桐陽祭開催のお知らせをHPにアップ
- 9月13日 コーヒーショップで桐陽祭に参加
- 14日 ”
- 9月16日 桐陽祭の模様をHPにアップ
- 11月6日 中学、高校の創立記念集会にて副会長の中島亮子さんが講演記念集会の模様をHPにアップ
- 11月9日 定例役員会開催
- 11月14日 役員会の模様をHPにアップ
- 12月2日 桐陽祭の売上金を新宿区社会福祉協議会へ寄付。社協より感謝状贈呈。
- 12月8日 社協から寄付と感謝状贈呈式のお知らせをHPにアップ
- 2月 同窓会入会式
卒業式
- 3月 入会式と卒業式の模様をHPにアップ
その他住所変更、パソコン入力作業、学校との打ち合わせ、など必要に応じて役員意見交換や、活動を行っています。

- 令和7年度決算報告、監査報告、
令和8年度予算案
(同封の別紙をご参照ください)

●令和8年度活動報告

会報発行、HP更新、住所変更作業、桐陽祭参加等、その他学校と協力しながら活動してまいります。

- 本年度は役員の改選はありません

●令和8年度新役員(幹事)

池永 茉織	森 梓花
齊藤 悠真	岡崎 夕空
飯塚 正輝	鴨原 蒼生
高清水優佳	鹿又 理央
芝山 昇亮	田代 彩環
鳥居 佐和	小野 真
大矢向日葵	尾原 璃桜
吉田 唯人	木内 心結
黒羽 瑛斗	長島 成

●新幹事よりひとこと

岡崎 夕空

この度、目白研心高等学校同窓会新役員のリーダーになりました。令和七年度(八年卒)元高校3年6組の岡崎夕空です。

私は中学生の頃から目白研心に通っていました。私が中学生の頃はコロナ禍で、2ヶ月遅れて入学式が行われ、Zoomで授業が始まるという学校生活のスタートでした。コロナ禍のため行事も行われず、辛い中学校生活でした。

高校生活が始まり、コロナ禍も落ち着いて行事もすべて行うことができ、充実した学校生活を送ることができました。高校2年生では修学旅行で九州に行くことができ、長崎原爆資料館や民泊などを通して、これまで知らなかったことをたくさん学ぶことができました。

高校3年生になると受験勉強が忙しくなり、進路についても悩み始め、大変な一年でした。しかし、共に支え合いながら頑張る仲間や、困った時や悩んでどうしようもなくなった時に助けてくださった先生方のおかげで、自分の目標としていた進路に進むことができました。

この三年間はたくさんの方々に支えられ、自分自身も成長することができました。これからは、先生方のように、子どもたちが困った時にすぐ気づき支えてあげられるような保育者になりたいと思っています。

今後も目白研心の卒業生として、これからの目白研心の発展の支えになっていけたらと思っていますので、今後ともご協力よろしくお願いいたします。

まだまだ未熟ではありますが、精一杯同窓会役員として頑張りたいと思っています。



令和8年度卒業生新幹事の皆様

桐陽祭 2025

9月13日、14日両日にわたって目白研心中学校・高等学校の桐陽祭が行われました。

テーマは「彩(いろどり)」

彩という文字からは、美しさや華やかさ、明るさを感じられます。

生徒1人ひとりが個性豊かにそれぞれの色を放ち、個々の色が重なり合ってクラス、学校の色が表現されていくという素晴らしいテーマでした。

同窓会として2日間にわたりコーヒーショップを出店させていただきました。前年は1日のみでしたが、大変な好評をいただいたため、今年は2日間の出店となりました。

会場の大体育館に入る前からコーヒー豆の香ばしい香りが漂い、自然と行列ができていました。

近年の卒業生たちを中心にスタッフが構成され、夏休みにはハンドドリップの猛特訓をしてくれました。おかげさまで、今年も好評により用意したコーヒーは完売しました。

多くの同窓生が来店してコーヒーを飲んでくださり、ありがとうございました。

本年もコーヒーショップは続けていく予定です。

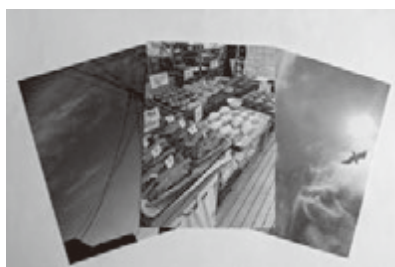
生徒の皆さんは、1つひとつの展示やイベントの準備を欠かさず、一生懸命に取り組んでくださいました。

その意欲が伝わってくる素晴らしい桐陽祭でした。

あらためまして、生徒の皆さん、先生方、そして御来校くださった同窓生の皆様に感謝申し上げます。



スタンプラリーに挑戦。
制覇してみました！



写真部の展示では、アンケートに答えると部員が撮影した綺麗な写真を1枚プレゼント。選ぶのに悩みました！



2026 年度も開店決定 Hand-led Coffee 桐陽祭 9 月 12 日（土）、13 日（日）



昨年、桐陽祭にて 2 回目の開店となったコーヒースタンド企画『Hand-led Coffee』。運営は同窓会、無類のコーヒー好きの長谷先生のご指導のもと「人の手で淹れたコーヒーのおいしさを知ってもらいたい」という想いをもった同窓生が、スタッフとして集まりました。

使用するコーヒー豆は、学校周辺地域の自家焙煎のコーヒー店様より入手。1 時間ごとにコーヒー豆を変えて提供し、2 日間ですべて異なるコーヒーを楽しめる仕組みです。



おいしい淹れ方を習得しました

初年度の評判が良く、2025 年は 2 回目ということで開催日を 2 日間に拡大。訪れた卒業生の皆さまへ「無料コーヒーチケット 1 枚」をサービスでお渡ししました。

「1 杯 100 円」という手頃さもあって、気軽にコーヒーを飲みたい方、コーヒーの風味にこだわる方も、各種のブラックコーヒーを味わってくださいました。



1 日目のタイムテーブル



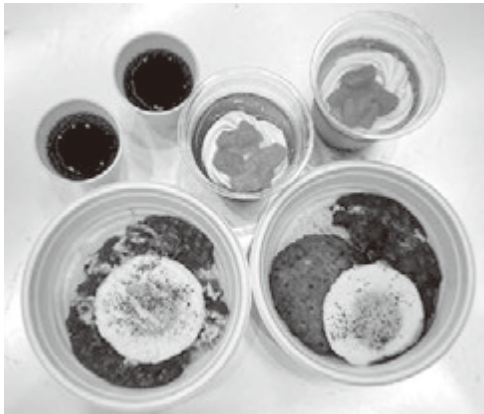
ご協力いただいたお店の紹介コーナー



気がつくとお店の前には行列が！

同窓会役員も 2 日間ともお店を訪れ、ランチタイムとティータイムに各種コーヒーを堪能。

昨年同様、カフェテリアの美味しいお料理とデザートを持ち帰ってお店の近くでいただきました。プリンがボリュームがパワーアップしていましたよ！



相性抜群！ランチとブラックコーヒー



たこ焼き、焼きそば、他にも盛りたくさん



ボリュームなプリン



お土産にも！生徒会が販売したお菓子

隣で生徒会が販売していたお菓子も購入し、素敵な時間を過ごしました。

私たちが味わったコーヒーは

1日目：ホンジュラス、山口農園ブラジル、
カフェドルチェ

2日目：モカマタリ、グアテマラ、マンデリン

ランチと甘いものにそれぞれマッチする苦味や酸味、香りの違いを楽しみました。

ちなみに、各時間帯で豆は完売しました！

今年の桐陽祭でも2日間に渡って開店しますので、皆さまぜひ『Hand-led Coffee』にお立ち寄りください。



今年のコーヒーもお楽しみに



スタッフ一同、お待ちしております

フェアトレードと ダイレクトトレード

桐陽祭に出店している「ハンドレッドコーヒー」では、卒業生がコーヒー店を巡り、おいしいだけでなく、作る人や地球にもやさしいコーヒー豆を選んでいきます。同窓会では主にフェアトレードとダイレクトトレードの豆を使用しています。このこだわりは実はとても大切なものです。今回、このこだわりについて、昨年小学校の先生になった卒業生の石井大翔さんが、分かりやすくまとめてくださいました。

○フェアトレードってなに？

フェアトレードとは、公平（フェア）な取引のことです。

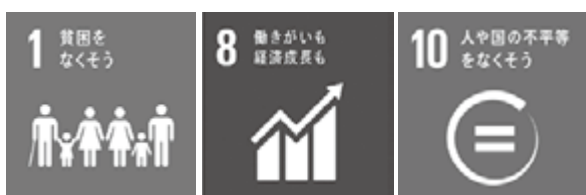
厳しいルールに基づきコーヒーを作る人にきちんとした値段を払い、安全に働けるようにし、子どもが学校に通えるように支援する仕組みです。

フェアトレードのマークのある商品を買うことで、世界の人たちを応援できます。

フェアトレードのマーク



- ・フェアトレードはSDGs（持続可能な開発目標）につながる？



フェアトレードは、「貧困をなくす」「働きが

いのある仕事をつくる」「公平な社会をつくる」SDGs（持続可能な開発目標）の多くに関わる取り組みです。

コーヒーはこうやって育ちます (花と実)



コーヒーの木には白い花が咲き、やがて実をつけます。

その実の中にある種が、私たちの飲んでいるコーヒーになります。

(ニカラグア・乾燥)



ニカラグアでは、収穫したコーヒー豆を天日でゆっくりと乾燥させます。広い場所に豆を広げ、丁寧に手入れをしながら仕上げていきます。

(ブラジル・乾燥)



ブラジルでは赤く熟したコーヒーチェリーを天日で乾燥させます。台の上に広げるなど、それぞれの土地に合った方法で大切に育てられます。天日干しの後果肉を取り除きコーヒー豆が取り出されます。その後日本へ輸出され私達のもとへ届けられます。



(焙煎)

ニカラグアやブラジルで大切に育てられたコーヒー豆を、日本で丁寧に焙煎します。豆の個性をいかしながら、豊かな香りと味わいを引き出します。



(抽出)

焙煎した豆を使い、ハンドドリップの練習を重ねた卒業生のみなさんが、一杯ずつ心をこめてコーヒーを淹れています。こうして、皆さまにお楽しみいただく一杯が出来上がります。

○ダイレクトトレードとは？

ダイレクトトレードは、農園とお店が直接つながって買う方法です。

- ・丁寧に作られたおいしい豆が届く
- ・作った人の思いがわかる
- ・農家を直接応援できる
- ・新鮮なコーヒーが楽しめる

作った人の顔が見えるので安心できて、味もすばらしい。

そんな良いところがあります。

○信頼できる取引へのこだわり

ダイレクトトレードには、フェアトレードのような世界共通の厳しいルールはありません。そのため、会社によっては、取引の内容が見えにくいこともあります。

しかし、同窓会がコーヒー豆を購入している会社は、「カップ・オブ・エクセレンツ」という世界的に有名なコーヒーのコンテストで受賞したコーヒーを仕入れ、販売しています。

「カップ・オブ・エクセレンツ」では、世界中の専門家がコーヒーの味や品質を比べ、良いコーヒーだけが選ばれます。

入賞したコーヒーは、その後インターネットオークションで世界中の買い手が入札します。落札した金額は、すべてコーヒーを作っている農家に支払われる仕組みになっています。

同窓会では、コンテストで受賞したコーヒー豆を扱う信頼できる会社から豆を仕入れ、ドリップしています。



カップ・オブ・エクセレンス会員証

○ハンドレッドコーヒーの思い

同窓会の「ハンドレッドコーヒー」は、おいしいコーヒーだけではなく、生産者・環境・社会のことまで考えたコーヒー作りを大切にしています。

1杯のコーヒーを楽しみながら、環境を守り、社会にもやさしい選択ができる、そんな想いのこもったコーヒーショップであり続けたいと考えています。

「コーヒー本来のおいしさを知ってもらいたい」という思いから、ミルクや砂糖は置いていません。

1杯のコーヒーから、世界とつながる優しい気持ちを感じてみませんか？

学年会開催

2026年2月7日(土)、都内に今年初めての雪が舞う厳しい寒さの中、新宿駅近辺の飲食店にて「2015年度卒業生 卒業10周年同窓会」を開催いたしました。残念ながら今回はご欠席された皆様にも、当日の温かな雰囲気と喜びが少しでも伝われば幸いと思い、ここに記します。

当日は、遠方からの参加者も含め総勢29名の同窓生が集まりました。さらに、高校3年時にお世話になった5組担任の杉沼先生、6組担任の桑原先生にもご臨席いただくことができました。心より御礼申し上げます。

会の始まりは、久しぶりの再会に少し緊張した空気もありましたが、乾杯とともに次第に打ち解け、先生方が到着された瞬間、その場は一気に10年前の教室へと戻ったかのような賑やかさに包まれました。学生時代と変わらぬ笑顔が広がり、あちこちで近況報告や思い出話に花が咲きました。

先生方からは、心に深く残るお言葉をいただきました。「皆さんは今、社会や家庭で責任ある立場となり、それぞれの場所で忙しく頑張っている世代です。そのような中で、これだけ多くの仲間が集まったことは本当に素晴らしいことです。この出会いを大切にしてください。皆さんの生き生きとした姿を見ることができ、本当に良かったと思いました。改めてこの学年の団結力と、互いを思いやる温かい雰囲気を感じることができました。ありがとう。」というお言葉は、私たちにとって何よりの励ましとなり、かけがえのない時間となりました。また、会の終盤、杉沼先生が店を出られる前に「お店の方に感謝して、机を片付けてから出ましょう!」と声をかけてくださった場面では、修学旅行の夕食後に皆で食器をまとめていた光景が思い出され、思わず笑みがこぼれました。

卒業から10年経っても、先生の一言でふと学生時代に戻る—そんな温かな空気に包まれ、終始笑顔の絶えない和やかな会となりました。

た。幹事としても、久しぶりに再会した皆さんの変わらぬ笑顔と、それぞれの場所で懸命に歩んでいる姿に大きな力をもらいました。「また集まろう」という声も多くいただきましたので、5年後、10年後を目安に、再びこのご縁をつなぐ機会を設けられればと考えております。同窓会は、懐かしさに浸るだけでなく、今を頑張るお互いを認め合い、これからの日々を生きる力をもらえる大切な時間だと改めて感じました。

この報告を通して、「同窓会っていいな」「自分たちも集まってみたいな」と思っただけでしたら幸いです。

結びに、皆様の今後ますますのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。どうぞ、この大切なご縁がこれからも続いていきますように。

幹 事

堀江京香(旧姓飯島)／関川人嗣／田端葉／村岡昂哉



上：参加者全員での集合写真



左：開催にご尽力いただいた幹事の皆様

2015 年卒業生の卒業 10 年目の学年同窓会の準備例と、誰でもできるクラス会の方法

同窓会に出ても知らない方が多く、なかなか参加しづらいこともあります。

そんなとき、同じ学年やクラスだけで集まるクラス会・学年会を「やってみたいな」と思う方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

中心となる有志が2～3人いれば、少人数でも開催は不可能ではありません。

ここでは、2015 年度卒の学年会開催の過程をご紹介します。どのように進めたかを参考に、どうぞお気軽に企画してみてください。

同窓会としても、必要なサポートやご相談があれば可能な限りお手伝いさせていただきます。

● 2015 年卒業生の学年同窓会準備事例

幹事 飯島 京香

私たちは、卒業 10 年目の節目に、学年 200 名を超える同窓生の同窓会を企画しました。

日頃から SNS を活用している世代でしたが、クラス LINE も全員は残っておらず、LINE や Instagram だけの連絡には限界を感じました。

そこで、同窓会事務局に相談し、在校時の住所宛に自分たちで作成した案内ハガキを送ってもらいました。

プライバシーに配慮して、住所印刷や投函は事務所経由で行っていただき、無事に案内を届けることができました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。

準備のステップ (若い世代向けの方法)

1. 連絡用メールと QR コードの準備

- Gmail アドレスを作成し、Google フォームで出欠確認を実施
- 案内ハガキには QR コードを印刷し、スマホから簡単に出席登録できるようにしました
- フォームには日時・会場・参加費・会費の集金方法・回答期限・幹事連絡先に加え、思い出や近況も短文で入力してもらいました
- 写真や動画の SNS 掲載許可もこの時点で確認

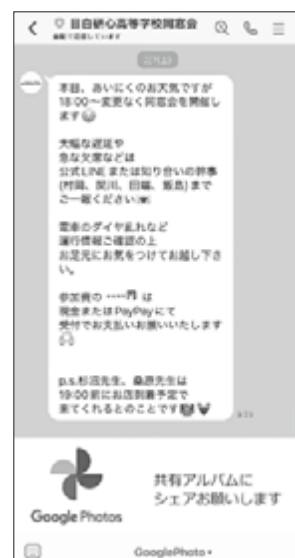
2. 公式 LINE の作成

- 案内や当日の連絡、遅刻・欠席連絡も LINE で一括管理
- 個別のやり取りを最小限にし、幹事間の負担を減らしました
- Google フォトで写真アルバムを作り、LINE から共有

3. 人数確定と会場予約

- 参加者の返信をもとに人数を確定
- 新宿駅周辺で会場を予約し、当日の連絡も LINE で管理

結果として、準備・情報共有・出欠確認・写真共有まで、すべてスムーズに行うことができました。



●デジタルが苦手でもクラス会は開けます

もちろん、LINE やメール、Google フォームなどを使う方法は、デジタル操作に不慣れな方や年代によっては難しいこともあります。

しかし、年齢やパソコンスキルに関係なく、クラス会は開くことができます。

シンプルな方法は次の通りです

- ・ハガキで案内を出す
- ・出欠の返事を中心者の方に郵送してもらう
- ・中心者が出席者をまとめる

パソコンやスマホが使えなくても、アナログなやり方で十分準備可能です。

多少手間はかかりますが、やる気さえあればクラス会は開けます。

中心者になっていただくことが大切です

中心者になっていただければ、ハガキや電話、直接の連絡など、できる方法で学年同窓会やクラス会を実現できます。

経験や道具よりも大切なのは、「皆に会いたい」という気持ちです。

どうか「自分には無理」と思わず、ぜひ中心者となってクラス会や同窓会を企画してください。



創立記念集会で中島副会長が講演

秋らしい天気にも恵まれた11月5日（水）、佐藤重遠記念館にて目白研心中学校・高等学校の創立記念集会が行われました。

昨年に続き、今年も学校から同窓会に講演の依頼をいただき、副会長の中島亮子さんが講演を行いました。

この集会は中学1年生と高校1年生を対象に、入学して半年が経ち、学校生活に慣れてきた時期に、学校の歴史や建学の精神を学ぶ機会となっています。

場内では、はじめは生徒たちの元気な声が響いていましたが、集会が始まる合図とともにすぐに静かになり、真剣に話を聞く姿勢に切り替わりました。その姿に「さすが目白研心の生徒」だと感心しました。

集会の冒頭では、吉田校長が学校の歴史や創立者への思いについて話をされました。

また、学園の建学の精神である「主・師・親」の教えに触れ、中学・高校の名前に含まれる「研心」という言葉には「心を磨く」という意味があることを紹介し、「皆さんには、自分の心を磨いて、キラキラと輝くような人になってほしい」と語られました。

さらに、今年の台湾修学旅行で出会った高校生たちが、笑顔で主体的に行動していた姿に感動したことを紹介し「人と人をつなぐのは言葉だけではなく、態度や心です。人間力は言語を超える力です」と話されました。

そして「自分の頭で考え、行動することを大切にしてください」というメッセージを贈りました。

続いて壇上に立った中島亮子副会長は、Power Point を使いながら、聴覚と視覚の両方に訴える形で講演を行いました。

講演のタイトルは

『Anything is possible!! Better late than never!!
(何でもできる! 何もやらないよりは遅くてもやる方が良い!)』

副題は【自己肯定感を高めよう】です。

中島副会長は、自身の経験を交えながら話をされました。

人生は思いどおりにならないことの連続で「こんなはずじゃなかった」と感じることも多いけれども「先のことは分からないからこそ面白い」と前向きにとらえることが大切。

思い立ったときに行動すれば何でもできる——そんな希望に満ちた内容でした。

自分自身もこれまでに何度も挫折を経験したそうです。

思いがけない出来事に直面したときも、不満をこぼしたり、周囲のせいにしたりするのではなく「まさかという状況を受け入れること」が大切だと語られました。

また、物事が順調に進まなかったとしても「それは失敗ではなく経験の積み重ね」であり「その積み重ねがいつか自分の大きな力になる」と

伝えました。

そして、人生には暗い「まさか」もあるけれど、そこから新しい可能性や明るい「まさか」も生まれることを熱く語りました。

生徒の皆さんには「勉強は大変だけれど、それは人生の“引き出し”を増やすこと。知識や教養を積み重ねることで自信につながっていく」と励ましの言葉を送りました。

最後に「人生はプラスとマイナスがバランスをとりながら成り立っている」「思いどおりにならないことも経験して、より豊かな人生につなげていくことが大切」と語り、講演を締めくくりました。

講演後、壇上で花束を贈呈した中学生と高校生の代表の生徒さんからは「自分もうまういなくて悩むことがあるけれど、前向きに頑張っていこうと思いました」という感想が寄せられました。

その言葉に深く感動しました。

今年も同窓会として創立記念集会に参加し、皆さんと素晴らしい時間を共有できたことに、心から感謝申し上げます。



Power Point を使い、熱心に講演を行う中島さん



「つまずいても前向きに頑張りたい」と決意を込めて
花束を贈る中高生代表



「言葉を越える人間力を」と、自分から進んで行動する
大切さを伝える吉田校長

目白研心の生徒の活動を伝える社協情報紙
「おちあいだより」

同窓生からのお便り

喜寿を迎えて

昭和41年卒業 亀井 まさえ

目白で学んでから約60年。このたび喜寿を迎え、同窓会報への原稿依頼をいただいたことをきっかけに、これまでの年月を懐かしく振り返っております。

人生100年と言われる現在、金婚式も終え、3人の子供たちもそれぞれ独立しました。今ではそれぞれ家庭を持ち、わが家から車で20～30分ほどのところに住んでいます。夫婦そろって元気に旅行をしたり、息子家族、娘家族と9人で旅行を楽しんだり、子育てに追われていた頃とは違う、穏やかで幸せな時間を過ごしています。

何より長年の友人にも恵まれました。主人の高校時代の友人三夫婦とは今でも親しく交流を続けており、春と秋には一緒に旅行をします。若い頃に戻ったような会話が盛り上がり、お酒も進みます。2か月に1度、男性軍はゴルフ、女性軍はランチ会。そして次の旅行の打ち合わせを兼ねた夕食会と、楽しい時間はあっという間に過ぎ、「じゃあおやすみなさい」と別れ、それぞれ電車や車、タクシー

で自宅へ帰ります。

私どもはイラクのバグダッド、英国のロンドン、ドイツのデュッセルドルフと3か国に赴任し、合わせて約10年の海外生活を送りました。友人たちも英国やドイツまでよく遊びに来てくれ、本場のゴルフを楽しんだり、女性たちは市内観光や買い物を楽しんだり、夜は全員そろって食事をし、にぎやかな時間を過ごしましたが、友人たちが帰国した後は、灯が消えたような寂しさを感じたものです。

イラクでは日本人にとっても親しみを持ってくれました。「神風という言葉を知っているか」と聞かれ、「はい」と答えると、自分を犠牲にして国を守る日本人の精神が好きだと言われたこともありました。アジアの子供は珍しいようで、2歳の長男や生後7か月の次男はすぐ抱き上げられて泣いていたのを覚えています。ただ回教国のため豚肉を食べる習慣がなく、食事は牛肉や鶏肉が中心でした。顔なじみのお店ができると、こっそり厨房に案内され、高い豚肉を買ったこともありました。

英国へは娘1人を連れての赴任でした。小学校を卒業したばかりで、友達と別れるのが



アルプス山脈に属する標高4478mの
マッターホルンを背景に！



ご夫婦で

嫌だと泣きましたが、今ではその英語が娘の人生を大きく広げてくれています。

最後の赴任地ドイツでは主人と2人の生活になりました。子供たちは日本にいましたが、春休み、夏休み、冬休みになると子供たちや友人が訪ねてきて、毎日家政婦のような忙しさでした。それも今では懐かしい思い出です。子供がいなかった分、自分の時間もあり、友

人とオランダのローモントにあるヨーロッパ最大級のアウトレットまで約 55km の道のりを高速道路で出かけたこともありました。

若かったからこそできた貴重な経験を、この原稿依頼のおかげで改めて懐かしく思い出することができました。これからも同窓会のご縁を大切にしていきたいと思っております。



「憧れの職業に就いて」

平成 26 年卒業 松澤 優花
(旧姓 中村)

昨年の夏、「目白研心中
 学校・高等学校 同窓生か
 らのお便り」の執筆依頼を
 いただきました。現在、公
 立中学校の教員として勤務
 しておりますが、文章を書
 くことはあま



フランスでの1枚

り得意ではなく、最初はお断りしようかと悩みました。しかし、目白時代にお世話になった先生方への感謝の気持ちと、教職を目指している方々への応援になればと思い、お引き受けすることにしました。

【学生時代】

入学当初は女子校での生活に少し不安もありましたが、学年約 60 名という温かな環境の中

で、多くの友人や先生方に支えられながら充実した学校生活を送ることができました。

中学時代は理科部に所属し、長期休暇中に行われる天体観測を楽しみにしていました。夜空いっぱいに広がる星を眺めながら仲間と過ごした時間は、今でも大切な思い出です。

高校では華道部と美術部に所属し、文化祭でのドレスファッションショーにも参加しました。作品づくりや発表を通して、表現することの楽しさや仲間と一つのものを作り上げる喜びを学びました。

【教師を目指したきっかけ ～二人の先生との出会い～】

一人目は、高校時代の美術の先生である花里先生です。

先生はとてもパワフルで、描かれる作品の素晴らしさに圧倒されたことを今でも覚えています。授業では絵を描くだけでなく、さまざまな表現方法を教えてくださり、作品づくりの楽しさや奥深さを学びました。

また、制作の相談だけでなく、進路や学校生活の悩みにも親身になって耳を傾けてくださり、たくさん励ましていただきました。文化祭で取り組んだ紙のドレス制作も忘れられない思い出です。その経験は現在の私にもつながっており、勤務校の美術部でドレス制作

の指導を行っています。

現在も先生が主催されている美術研修会に参加し、多くのことを学ばせていただいています。生徒時代に憧れた先生から今も学び続けられることを、とても幸せに感じています。

二人目は、高校時代の英語の先生である神戸先生です。

先生はいつも明るく、教室に入ってこれるだけで雰囲気明るくなるような方でした。授業はとても分かりやすく、英語が苦手だった私にも「なるほど」と思える瞬間をたくさん与えてくださいました。

放課後の補習では、一人ひとりに丁寧に向き合い、「できるようになるまで一緒に頑張ろう」と励ましてくださいました。その姿勢に支えられ、自信を持つことができたのを覚えています。

先生から学んだのは知識だけではありません。生徒を前向きな気持ちにさせる関わり方や、寄り添うことの大切さでした。私も先生方のように、生徒の成長を支えられる教員になりたいと思い、教職を志しました。

【現在】

大学卒業後、教員として七年目を迎えました。現在は中学校で美術を担当しながら、特別支援学級の担任、美術部の顧問、市内の就学支援に関わる業務にも携わっています。

毎日、生徒たちと向き合う中で、この仕事の難しさを感じる場面は少なくありません。特別支援学級では、一人ひとりの特性や感じ方が異なるため、同じ言葉でも伝わり方はさまざまです。美術の授業でも、準備した内容が思うように伝わらないことや、生徒との関わり方に悩むことがあります。

それでも、この仕事を続けたいと思えるのは、生徒たちの成長に立ち会える喜びがあるからです。

これまでできなかったことができるようになったとき、作品を通して自分の気持ちを表現してくれたとき、「できた」「わかった」と笑顔を見せてくれたとき、その一つひとつが大きな励みになります。

また、「絵は苦手」と言っていた生徒が作品完成後に「楽しかった」と話してくれたり、美術部の生徒が技術面だけでなく作品を見る力や仲間と協力する力を身につけたりする姿を見ることにも、大きなやりがいを感じています。

教員の仕事は決して楽しいことばかりではありません。思春期ならではの悩みや反発、答えの見えない課題に向き合いながら、悩み、迷うこともあります。しかし、生徒たちと共に笑い、失敗し、挑戦しながら成長していく日々は、かけがえのないものです。

卒業式で「先生、ありがとうございました」と声を掛けてもらえたとき、生徒たちの成長した姿を見たとき、この仕事を選んで良かったと心から感じます。

これからも目白研心で学んだこと、先生方からいただいた温かいご指導を胸に、生徒たち一人ひとりの可能性を信じながら、教育に携わっていきたいと思います。そして、これからの日本を担う子どもたちのために、日々努力を続けていきたいと思っています。



花里先生主催の研修会にて制作したドレス

二人で歩んだ野球部

平成24年卒業 長沼 研人

昨年秋、同窓会会報への執筆依頼があり、とても驚きました。正直、少し前までの自分であればお断りしていたと思います。ただ、昨年の同窓会会報で野球部の特集をしていただき、私の経験が少しでも野球部への注目や応援につながればと思い、喜んでお受けしました。

目白学園から目白研心高校となり、共学化の第一期生として入学した私も、卒業してから早くも10年以上が経ちました。高校受験当時は、どの学校を受けるか悩んでいる中で、校舎新設予定の高校特集に目白研心が載っていたのを見て、「なんとなく」受験したのがきっかけでした。説明会に行くまで、元女子校で共学一期生だということを知らなかったのは、今となっては良い思い出です。

入学前は、ちゃんと友人ができるのか不安でした。実際に入学してみると、想像以上に男子生徒が少なく、教室に入ろうとすると、目白学園中学から進級してきた女子生徒たちの雰囲気のにまれてしまい、なかなか教室に入れませんでした。気がつく、と、登校してきた男子生徒が一人、また一人と廊下に集まり、同じ境遇だということもあって(笑)、すぐに打ち解けていきました。

野球部の一期生として紹介していただくことが多いのですが、実は最初、野球部の雰囲気少し怖くて、すぐには入部できませんでした。友人に誘われて弓道部と邦楽研究部に入りましたが、校舎の外から聞こえてくる野球部の練習の音や声が、ずっと気になっていました。

そんな中、野球部だった親友の増田が「一緒に野球やろう」と何度も声をかけてくれたことが、入部を決めた一番のきっかけです。弓道部と邦楽研究部の顧問の先生方に退部を

相談した際、「頑張ってこい」と背中を押してもらえたこと、そしてその後も校舎で会うたびに声をかけていただいたことには、今でも感謝しています。

途中からの入部でしたが、当時いた10人の部員は快く迎えてくれて、楽しく切磋琢磨する日々が始まりました。ただ、入部1年目は高野連に所属できておらず、公式戦どころか練習試合や合同練習もできない状態が続きました。「何のために野球をやっているんだろう」と感じることも多く、部員は少しずつ減っていきました。私自身も悩みましたが、応援してくれる先生方や同級生、そして何より、誘ってくれた増田が辞めなかったことが、最後まで続けられた理由だと思います。

最終的に部員は、増田と私の二人だけになりました。正直、想像以上にきつい日々でした。周りから心ないことを言われることもあり、グラウンドが使えなくなりそうになったこともありました。それでも、鈴木先生と三人で試行錯誤しながら、他ではできない経験をたくさんさせてもらい、野球を続けることができました。

人前に出るのが得意ではない私に代わって、増田が部活紹介や部員勧誘を引っ張ってくれ、なんとか9人が集まりました。ずっと二人についてきてくれた2年生、ふざけているけれど芯のある1年生3人、兼部で助っ人に来てくれた3人。誰一人欠けても、試合に出ることはできませんでした。

やっと実現できた試合当日、増田は高熱を出していました。それでも「これが最初で最後の公式戦になるかもしれないから」と、一番きついキャッチャーを最後まで務めてくれました。

受験期にもかかわらず、サッカー部を中心にたくさんの同級生が応援に来てくれたことが、今でも強く印象に残っています。部員が

二人しかいない中でも部として残してくれた学校や、支えてくれた先生方には、本当に感謝しています。

真剣に向き合ってくださった鈴木先生の存在は、私にとってとても大きなものでした。「一番下手だけど、一番真面目な二人が最後まで残ってくれてよかった」という言葉は、今も心に残っています。そして、目白研心高校での野球部生活は、ずっと一緒に続けてきた増田の存在なしには語れません。本人にはなかなか言えませんが、この場を借りて伝えたいと思います。

増田、本当にありがとう。

目白研心高校野球部での経験は、その後の人生にもつながっています。大学では友人とボランティアサークルを立ち上げたり、アルバイトではオープニングスタッフとして働いたり、新しいことに挑戦する機会が多くありました。また、当時退部してしまった野球部員たちと草野球チームを作り、再び野球をする時間もありました。

現在は、創業100年を超える包装資材の専門商社で営業として働いています。全国に約

270店舗を展開しており、同窓生の皆さんの身近にもあるかもしれません。転職が多い時代ですが、同じ会社で働き続け、今は主任として後輩の指導や新しい取り組みにも関わっています。

野球部への訪問は、増田に誘われつつもタイミングが合わず、まだ実現できていません。ただ、卒業生の中からプロを目指す選手が出ていると聞き、現役部員が頑張っている姿をととても誇らしく思っています。私自身も新しい生活を迎えるタイミングなので、近いうちに鈴木先生や現役部員の皆さんに会い、経験をもとに少しでもエールを送れたらと思っています。

最後になりますが、目白研心高校野球部が甲子園の舞台に立ち、一期生として応援に行ける日が来ることを心から楽しみにしています。同窓生の皆さんにも、ぜひ母校の野球部を気にかけていただき、温かい応援をいただけたら嬉しいです。

皆さまのご健康とご多幸をお祈りしています。



上：今も変わらぬ仲間たち

左：親友・増田キャプテンの結婚式にて



伊勢山ヒルズでのプロポーズ

いつも会報を送ってくださり有難うございます。
近くに住んでおりますが残念ながら高校時代の方
とはお付き合いがございませんのでなかなか同窓
会に出席できませんが宜しく願いいたします。

●昭和37年卒業

A・H

いつも会報を楽しみにしております。63年も前の高校時代は遙か昔となりました。恩師木村達明・矢部三千法両先生も鬼籍に入られ、今は同期の友人を懐かしく思う日々です。役員の皆様、編集の皆様有難うございます。

●昭和38年卒業

M・H

毎日の暑さにも負けず元気にしています。ハワイにでも行ってきた様に日に焼け真っ黒です。

●昭和39年卒業

K・I

いつも会報を頂き有難うございます。いつもお返事をおもっておりました。今回思い切ってペンを執りました。友と通った中井駅からの坂道、懐かしいです。役員の方々に感謝致します。これからの益々のご発展心よりお祈り申し上げます。

●昭和39年卒業

K・S

毎年会報有難うございます。表紙の素晴らしさと内容の良さに感動です。少子化の中、目白が輝いている事嬉しく思います。楽しみは研心ミニレター、私と同学年の2名の方が載っておりペンを執りました。

●昭和40年卒業

T・T

今朝そろそろ目白学園からのお便りがくる頃だと思っていました。不思議です。皆様お忙しい中有難うございます。私含め親族4人が目白出身です。この瞬間は何はともあれ、お便りに夢中になり学生時代に戻ります。九州修学旅行、懐かしい夜行列車。とにかく学校に行くのが楽しみでした。

●昭和41年卒業

N・S

暑い今日この頃ではございますが、私達夫婦、子供夫婦、私、全部で9人の孫がいます。そのうち、二人はフランスにいます。毎年日本に会いに来てくれます。主人共々元気に過ごしています。本当に有難い事です。いつも本当に有難うございます。

●昭和42年卒業

M・N

夫が都内の大学病院に入院し、狭山から新橋まで通う日々が続いています。特急の車窓から景色を眺めていると、高校時代に狭山から中井まで通学していた頃を思い出します。毎日こんなに長い時間電車に乗っていたのかと懐かしくなります。ラッシュ時には降りられず、高田馬場まで行ってしまったこともありました。今も変わらぬ制服を見かけると、60年以上前の青春時代がよみがえります。

●昭和42年卒業

E・M

同窓会会報が届きました。昨年は残念ながら桐陽祭に行けませんでした。今年は是非行きたいと思います。コーヒーショップが楽しみです。卒業してから4人グループで年1回箱根に行き楽しく過ごしています。

●昭和42年卒業

K・K

私も77歳となり、目白時代を懐かしく想い出すことが多くなりました。特に円形校舎で学んだ日々は今も鮮明に記憶に残っています。授業中、初めて地鳴りを感じた後、校舎が大きく揺れました。先生の指示で机の下に避難し、後にM7.5の新潟地震だったことを知りました。1964年6月16日のあの体験は、今も忘れることができません。母校のますますのご発展をお祈りしております。

●昭和43年卒業

S・S

福岡に来て40年、年齢も75才となりました。高校生活楽しかったです。人間としては成長しきれなかった自分でしたが、友人と仲間のお蔭で青春でしたね。目白学園の発展をお祈りします。

●昭和45年卒業

K・N

目白研心の野球部躍進されて素晴らしいなと思っています。私の目白時代は女子校でしたので今の活躍羨ましく思っています。

●昭和43年卒業

M・O

会報送って頂き有難うございます。お蔭様にて人生のパートナーとエメラルド婚になり、日々リズムを取り過ごしています。これからも健康第一で2人揃って生きている事が仕事だと思い、過ごしていきたいと願っています。皆様、日々ご苦勞様です。又、ご健勝を願っております。

●昭和46年卒業

K・S

いつも会報を送って頂き有難うございます。久しく学校には行っておりませんが発展していることを会報で知る事ができ嬉しく思っております。

●昭和43年卒業

K・I

目白を卒業して57年、今年は75才になりました。今も仕事をしています。（自営業）息子が三代目として会社を経営している為主人と私は少しでもお手伝いできるかと思っています。元気です。

●昭和46年卒業

S・H

役員の皆様ご苦勞様です。卒業して早54年、今でも校舎の様子が思い出されます。懐かしいです。青春でした。

●昭和43年卒業

Y・H

最近毎日暑い日が続きますが今のところ主人も私も元気に過ごしております。会報を送って頂きますと目白学園の様子が思い出されます。事務所の方々ご苦勞様です。

●昭和47年卒業

S・K

会報を読ませていただきました。有難うございます。学校生活を思い出す事ができますので今の生活の基本になっています。

●昭和44年卒業

E・N

会報有難うございます。カフェテリアへ行き美味しいコーヒーを飲みたいです。

●昭和47年卒業

S・S

「ハリーポッター」近くの春日神社で暑さに負けず町会の盆踊り練習頑張っております！今年は「はい よろこんで」を炭坑節の振付や「かわいいだけじゃダメですか」を東京音頭の振付など楽しいです？

●昭和45年卒業

T・K

毎年会報届くたび3年間を懐かしく思う今日この頃です。大学、大学院と益々のご繁栄を心よりお祈りします。役員皆様のご苦勞を感謝申し上げ、ご発展を。

●昭和48年卒業

M・O

今年70才を過ぎ、高齢者と呼ばれるようになりました。目白で過ごした日々は今でも忘れられません。友人とも皆元気です。

●昭和 48 年卒業

J・F

何年経っても学生生活忘れないものですね。通学路の坂道、結構つらかったな!たまに思い出すのもいいものですね。

●昭和 54 年卒業

Y・M

高校卒業して46年も経ってしまいました。早いもので仕事も定年を迎えます。残りの人生、楽しく元気に過ごしたいと思います。

●昭和 48 年卒業

Y・S

同窓会会報をいつも楽しみにしております。高校生の頃が懐かしく当時の友達顔を思い浮かべています。白のブレザーは昔も今も人気があるんですね。

●昭和 55 年卒業

F・M

還暦を過ぎ持病はあるものの元気で過ごしております。皆様方の益々の発展、ご活躍をお祈り致します。会報誌有難うございます。

●昭和 49 年卒業

Y・M

古希を迎えました。今まで大病もせずここまで年齢を迎えられた事に感謝です。これからは今まで以上に健康に気をつけて一日一日を大事に大切に過ごして生きたいと思っています。皆様のご健康をお祈り致します。

●昭和 55 年卒業

J・S

何時もありがとうございます。来年は主人が古希を迎えます。現役で働いていますが少しずつ時間も取れる様になり夫婦で旅行など楽しんでおります。健康宝と大病した私はしみじみ～。皆様の健康、ご多幸を願い、又お目に掛かりたく思います。

●昭和 50 年卒業

F・O

役員の皆様、お疲れ様です。駅等で目白の制服に出会うと懐かしい頃を思い出します。69才になりましたが元気で働いています。

●昭和 55 年卒業

Y・I

世の中を担って行くのが我が子から孫の世代へと移行していく時代が見えて参りました。老いて来ても賢くなってきたとして感謝!(笑)

●昭和 50 年卒業

K・I

会報の御送付ありがとうございます。表紙の校舎や白いブレザーの制服なつかしく当時を色々思い出していました。学校の発展すばらしいです。

●昭和 57 年卒業

J・K

お世話さます。猛暑が続いておりますがご自愛くださいませ。会報楽しく読ませていただいています。有難うございます。

●昭和 52 年卒業

K・F

宮城県に移住し30年過ぎました。両親もこちらに呼び寄せ4年経ちました。なかなか伺う事ができませんが皆様のご活躍をお祈り致しております。

●昭和 59 年卒業

K・T

いつも楽しみに拝読しております。学び舎には高校～短大と“坂”を登り降りしてました。高校時代は部活の演劇に明け暮れ、まさに“青春”でした!◎この名前ピンと来たなら嬉しいよ。何はともあれ生きています◎皆様どうぞお元気で…

●昭和60年卒業

R・K

夫と娘、私の弟2人、母校はそれぞれ違いますが4校とも野球部が甲子園優勝と出場を果たしています！なので！目白研心野球部も是非甲子園出場してほしいです！期待して応援しています！！

●昭和62年卒業

Y・Y

会報いつもありがとうございます。あの頃を思い出しながら懐かしく楽しく読ませていただきました。役員の皆様のおかげです。

●昭和63年卒業

S・M

同窓会事務局の皆様いつも会報を送付いただき有難うございます。現在も地元で休みなく会社をまわす日々ですが、ふと目白で過ごした高校時代を思い出します。先生や友人との何気ない日々が今の自分の土台となっていると感じます。また皆さんに会えたら嬉しいです。

●平成2年卒業

Y・M

母校がなつかしいです。同窓会だよりに載せて頂いてありがとうございます。目白学園高等学校、目白学園女子短期大学、国語国文科卒業できて嬉しいです。

●平成3年卒業

M・I

進学した大学を卒業し就職した職場でこの春、勤務満30年となりました。結婚、出産。3人の子育てと仕事を両立し、このように元気の「主・師・親」の精神が少なからず活きたと今になって感じています。

●平成6年卒業

F・F

毎年ありがとうございます。友人とたまに会うと出会いから35年経ったことに時の早さに驚きます。今もなお交流のある友と出会えた目白学園に感謝です。

●平成9年卒業

K・S

仲の良い目白生とはLINEでやりとりをし、時間を見つけては食事に行っています。一生の友人に出会えた目白学園には感謝しています。

●平成25年卒業

D・T

今年も会報を読ませていただきました。毎回目白の大先輩方の近況報告や学校の様子を見て楽しんでおります。卒業から10年以上の時間が経ち私も30代になりました。色々なことに挑戦し、これからも頑張っていきます。

●令和5年卒業

T・A

学業、課外活動、バイト、そして就活と多忙ですが充実した毎日を送っています。さまざまな活動を通して成長を実感しています。

●令和7年卒業

R・S

近頃は大学生活にも慣れ楽しく毎日を送っています。

同窓会総会のはがきの近況報告欄にたくさんのコメントをいただき有難うございました。

いただいたコメントは、次回の会報でもご紹介させていただきます。

同じ時代を共に過ごした同窓生同士、また時代は違えど学園の様々な思い出を共有できる同窓生の憩いの場が「研心ミニレター」です。

多くの方々に楽しみにご覧いただいております。ぜひ、これからも皆さまの近況をお知らせください。お待ちしております。

ます！ また、9月12日・13日には桐陽祭（文化祭）が開催される予定です。ぜひお越しください。



卒業生子女入学金優遇制度

目白研心中学校・高等学校同窓生のお子様や兄弟姉妹が、目白学園に設置する学校（目白研心中学校・高等学校、目白大学、目白大学短期大学部、目白大学大学院）に入学される場合、**入学金が全額免除になります！** 詳しくは下記入試窓口までお問い合わせ下さい。

（ただし目白学園幼稚園卒園生は対象外です）



▶大学、大学院、短期大学部の入試について

目白大学入学センター

TEL : 03-3952-5115

MAIL : colkoho@mejiro.ac.jp

▶中学校、高等学校の入試について

目白研心中学校・高等学校 広報部

TEL : 03-5996-3133

MAIL : jhkoho@mejiro.ac.jp

目白研心中学校・高等学校にお子様の入学をお考えの方へ

学校説明会等の日程は、目白研心中学校・高等学校のホームページからご確認ください。



2027年度入試 目白研心 学校説明会日程

中学校

- 第1回 5/23(土) 14:00
- 第2回 6/20(土) 14:00
- 第3回 8/23(日) 10:30
- 第4回 10/3(土) 14:00
- 第5回 11/7(土) 10:30
- 第6回 12/12(土) 10:30
- 第7回 1/ 9(土) 14:00

<イベント>

オープンキャンパス

7/11(土) 10:30

高等学校

- 第1回 6/13(土) 14:00
- 第2回 7/25(土) ※2会場とも同内容
14:00(記念館)/14:30(研心館)
- 第3回 8/23(日) ※2会場とも同内容
14:00(記念館)/14:30(研心館)
- 第4回 9/26(土) 14:00
- 第5回 10/31(土) 14:00
- 第6回 11/14(土) 14:00
- 第7回 11/28(土) 14:00
- 第8回 12/5(土) 14:00

桐陽祭

9/12(土)・9/13(日) 9:00～14:00 ミニ説明会を実施予定

いずれも要予約 詳しくは本校ホームページをご覧ください



目白研心 中学校
高等学校



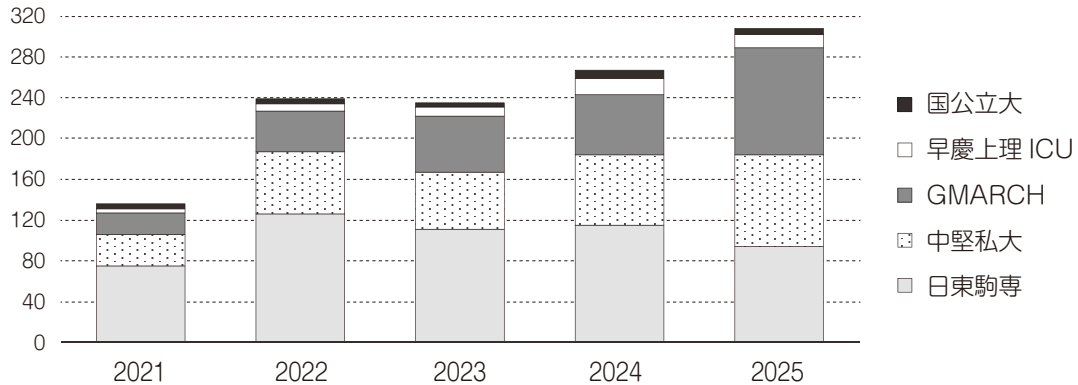
〒161-8522 東京都新宿区中落合4-31-1
TEL 03-5996-3133 (広報部)

2025年度 進路状況

～ GMARCH 合格数 100 突破、更なる飛躍へ～

進路指導部主任 齋藤 誠

■ 過去5カ年の合格実績（国公立～日東駒専まで）



	2021	2022	2023	2024	2025
国公立大	5	5	4	8	6
早慶上理ICU	4	7	9	16	13
GMARCH	21	40	55	59	105
中堅私大	31	61	56	69	90
日東駒専	75	126	111	115	94

※2025年度国公立大学合格校：鹿児島大学、信州大学、弘前大学、東京都立大学（3名）

※中堅私立大学：成蹊大、成城大、明治学院大、獨協大、國學院大、武蔵大

■ 合格大学群と実数

早慶上理ICU		G M A R C H		中 堅 私 大		日 東 駒 専	
早稲田大学	5	学習院大学	13	成蹊大学	15	日本大学	30
慶應義塾大学	1	明治大学	10	成城大学	16	東洋大学	39
上智大学	3	青山学院大学	8	明治学院大学	7	駒澤大学	10
東京理科大学	4	立教大学	26	獨協大学	11	専修大学	15
国際基督教大学 (ICU)	0	中央大学	26	國學院大學	16	—	
—		法政大学	22	武蔵大学	25	—	
計	13	計	105	計	90	計	94

■ 総 括

昨年度は創立史上初となる『GMARCH 合格数 100』の大台を突破いたしました。併せて中堅私大の合格数も過去最高の値を大幅に更新することができました。また、早慶上理 ICU についても一昨年度に続き合格数が二桁に乗り、生徒たちの頑張りを強く実感できる結果となりました。多様化する大学入試に立ち向かう生徒たちがより一層飛躍できるよう支援してまいります。

今年度もこれまで通り様々な学校行事が実施される予定です。卒業生による在校生に向けた進路講演会等も予定されておりますので、みなさまにご協力いただけたら幸いです。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

研心トピックス

吹奏楽部

顧問 長谷 亮太郎

目白研心吹奏楽部は現在、中学生4名、高校生28名の計32名で活動しています。主な活動としては、夏のコンクールや冬のアンサンブルコンテストなど各種大会への出場と、桐陽祭や定期演奏会などのコンサートの開催などを中心に、運動会でのファンファーレ演奏や入学式・卒業式でのロビー演奏、野球部の夏の大会での応援演奏など、学校行事においてもさまざまな場面で活躍の場面をいただいています。

現在は部の愛称として“Spica Winds（スピカ・ウィンズ）”という名称も用いていますが、この愛称が生まれたのは今から10年ほど前のことのようにです。Spicaとはおとめ座の一等星の名前ですが、複数の星がつながることで星座ができるように、吹奏楽も一人一人の演奏が重なって音楽になることを忘れないようにという思いが込められています。なお、目白の吹奏楽部の歴史は愛称よりもさらに古く遡ることができ、目白学園時代に購入したと思しき楽器や当時の刻印が施された楽

譜などが、今でも9号館にある楽器庫に数多く残っています。こうした品々に触れることで、目白の吹奏楽部の歴史の深さを感じられます。

吹奏楽部の長い歴史を振り返ったとき、数年前に世界中を苦しめたコロナ禍は、おそらく創部以来最大の危機だったといえるでしょう。コロナ禍の最中には演奏会やコンクールの実施はおろか、飛沫感染を防止するために日頃の練習すら行うことができず、部員数も激減。それまで先輩から後輩へと引き継がれてきた伝統や知恵が失われかけて、楽器庫では使うことのできない楽器たちが埃をかぶっている状況でした。しかしそのような厳しい時代にあっても、情熱をもって吹奏楽に取り組みつづけた部員たちと、吹奏楽部の活動を支え続けてくださった多くの方々のご尽力とご理解のおかげで、2022年から2024年にかけて3年連続で夏のコンクール（C組）の金賞（うち2023年は最優秀賞）を獲得することができました。日頃よりご支援・応援いただいた皆さまには、改めて感謝を申し上げます。

文明が発達し、さまざまな娯楽に手軽にア



野球応援



卒業式にて

クセスできるようになった現代では、子どもたちにとってはひとつの楽器を根気強く練習することはますます難しいことになってきたように感じています。そんな時代の中、今年度は新たに9名の部員を仲間に迎えることができました。国立音楽大学附属中高

にて教鞭をとられている上條先生にも引き続きご指導をいただき、演奏の質・部の規模の両面でさらなるパワーアップを図ってまいります。今後とも、どうぞ吹奏楽部の活動へのご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

卒業生の皆さまへ ご来校に際してのお願い

日頃より母校への温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、このたび学園では、防犯および教育環境の維持のため、ご来校時の対応について一部見直しを行いました。

昨今の状況を踏まえ、より安心・安全な環境づくりを目的とした取り組みです。

近年、恩師訪問などを目的としてご来校される卒業生の方もいらっしゃいますが、事前のご連絡がない場合、教職員が対応できないことや、防犯上の確認にお時間をいただくことがございます。

そのため、円滑にご案内させていただくためにも、ご来校の際には事前にご連絡くださいますようお願いいたします。

ご来校にあたり、以下の点につきご確認くださいませようをお願いいたします。

ご来校時のご案内

- ・教員にご用のある場合は、事前に電話やメールなどでお約束をお取りください。
- ・なお、訪問先の教員がご不明な場合や退職されている場合には、事務室までご連絡ください。

- ・各種手続きや書類の発行でご来校の場合も、事前に事務室へご連絡をお願いいたします。

- ・ご来校の際は、中高校舎側の東門（守衛室あり）をご利用ください。
正門（大学側）からの通行はご遠慮ください。

- ・東門守衛室にて、ご予約済みであることをお伝えください。

確認のうえ来校者証をお渡しいたしますので、校内滞在中は必ずご着用ください。

卒業生の皆さまにとって、母校が安心して訪れることのできる場所であり続けるよう、学校として環境整備を進めてまいります。

同窓会といたしましても、その趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



全国高等学校野球選手権東東京大会 予選会に行ってきました！

2025年7月12日土曜日、都営駒沢球技場にて目白研心高等学校野球部の『第107回全国高等学校野球選手権大会東東京大会』の初戦の応援に行っていました。

焼けつくような暑さの中、試合の熱気は場外まで伝わってきました。チケットを購入し球場に入ると、応援席には「目白の野球部が一番の推し、毎回必ず応援に行きます!」と語る松下前校長をはじめ、たくさんの同窓生の皆様や、地域の町会の方々など多くの姿が見られました。

野球部の皆さんは、昨年先輩からチームを引き継いだ時、思ったような結果が出せず、悩み苦しんだ日々が多かったそうです。それでも先輩が築き上げた野球部を、新たな舞台へ押し上げようと挑戦してきました。

スタンド前列にはレギュラーを目指す野球部のメンバーや、4月に入学した新入部員が並び、はつらつと応援していました。

得点が入るたびに『友よ手を取り、いざ立たん』という校歌の一節を肩を組んで歌っていて、私たちも元気をもらいました。皆さんに聞きましたら、応援の練習はさほどしていないそうです。それでもピタリとあった応援に、「勝ってもらいたい。夢を叶えたい」という気持ちが合わさり、一丸となったの応援となったようです。

この日の試合は聖学院との対戦でしたが、目白の選手全員がのびのびとプレーをしているように感じました。序盤から得点を上げ、全ての回でリードした良い状態で試合を進める事ができ、結果11対4という大差で勝利を収めることができました。

その後15日に行われた都立大崎高校との第3試合も4対3で勝利することはできました。



熱戦を見守る応援席！

そして18日に太田スタジアムで行われた九段中等教育学校との4回戦で苦戦し、終盤で点をあげましたが、あと一步のところまで追い越すことができず、3対6で勝利することができませんでした。

試合後、選手たちは応援してくれた多くの方々に対し感謝の言葉を述べられていて、礼儀正しい姿に感銘を受けました。

翌日目白研心の校庭に、昨日試合を終えたばかりの選手たちが元気に練習をしていました。その姿に未来を感じました。

本年も野球部は頑張っています。今年の予

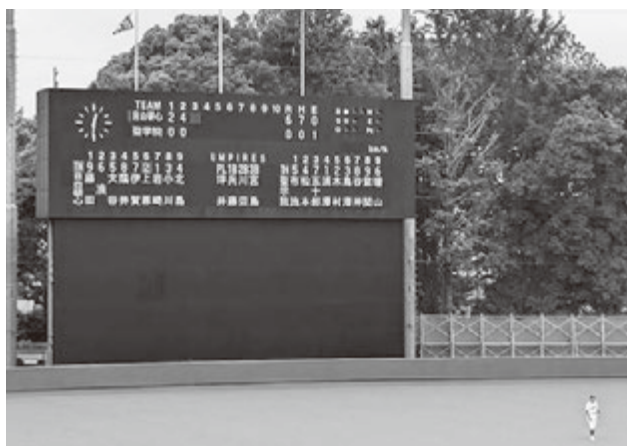
選大会の様子は学校のホームページからご覧になれます。予選会の日程もホームページよりわかりますので、お時間がある方は熱中症対策の上、是非応援に行かれてみてはいかがでしょうか。



名将・栗山英樹さんから送られた
『夢は正夢』の言葉を胸に熱い声援を送る



変わらぬ情熱で声援を送る松下前校長



全力プレーで挑む

「伝統を新しさで彩る」目白学園の今

目白大学短期大学部 製菓学科

かつて目白学園高等学校から多くの生徒が目白学園短期大学へ進学していました。特に80年代後半は目白学園の人気も高く、都内でも有数の難関校として知られていました。同窓生の皆様の中にも、短期大学をご卒業された方が多くいらっしゃると思います。

以前は国語国文科、英語英文科、生活科学科の3学科で構成されていましたが、時代の流れとともに、現在はビジネス社会学科、製菓学科、歯科衛生学科へと新たな体制へと変わりました。

また、「目白学園短期大学」は「目白大学短期大学部」へと名称が変更されました。なお、短期大学部は大学の一学部ではなく、大学とは別に設置された独立の教育機関です。

今回は、その短期大学部の中の「製菓学科」についてご紹介いたします。



実践的な製菓実習の様子

目白研心中学高等学校同窓会の皆様、御元気で過ごしのことと存じます。短期大学部製菓学科で学科長を務めております伊藤浩正と申します。同窓会誌に寄稿する機会を頂戴しありがとうございます。

製菓学科は前身である生活科学科製菓コースから2007年製菓学科として創設し本年度で20年を迎えることとなりました。創設当時から製菓製パン業界への就職を目指す人材育成する目的で、洋菓子和菓子製パンが学べる、大学では日本唯一の学科です。2016年度からは国家資格である「製菓衛生師」取得を目指すコースを設け既存の実践コースとともに学生は勉学と実習に励んでいます。

昨年度、文部科学省が発表した「全国学生調査（第4回試行実施）ポジティブリスト」において、製菓学科がトップクラスの評価となりました。全国学生調査は「学修者本位の教育への転換」を進めるための取組の一環として、全国共通の質問項目の回答から、学生

一人ひとりの視点で大学教育や日々の学びの実態を明らかにし、その結果を各大学だけでなく国においても高等教育政策の立案や制度設計などに活用することを目的としています。「ポジティブリスト」は、全国132の公私立短期大学に所属する学生を対象とした調査結果を基に、学生から高い評価を得た上位校と、その教育方法・教育改善の優れた事例を紹介するもので、「ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある（全国2位）」「理解がしやすいように教え方が工夫されていた（全国4位）」等5つの項目でトップ10にランクインしました。教員による分かりやすい授業や丁寧な指導、実習助手として活躍する卒業生、学びを支える支援体制、将来を見据えた教育内容など、製菓学科の教育への熱意と学びの充実度が高く評価されたことを大変うれしく思います。

製菓学科を知っていただく良い機会として、本年度は10月24、25日に開催を予定し

ている学園祭「桐和祭」があります。1年生は全員が授業の一環として、和洋菓子の製造販売をします。入学当初より出展のコンセプトやレイアウトを授業内で組み立てていき秋学期早々より販売に向けた製造を開始し、直前には普段の実習では味わうことのない大量生産に取り組みます。2年生は、春学期の製菓学セミナーで作り上げた卒業作品を展示発表します。桐和祭当日も学生が主体となって運営し、毎年好評を博しております。ぜひ本

年はお出かけいただき、学生の活躍の姿をご覧いただきたいと思います。



学生が手がけた製品



桐和祭での学生たち

公開講座体験記

2025年9月20日、目白大学短期大学部製菓学科が開催した和菓子の公開講座に参加しました。

秋を感じさせる『栗時雨』というお菓子和『月うさぎ』という練り切りのお菓子を作りました。

教えていただいたのは目白大学短期大学部製菓学科長の伊藤浩正教授。先生は80年以上続く老舗和菓子店、竹紫堂の三代目でもございます。

『栗時雨』は上新粉や卵の黄身などを使った蒸し菓子で、ひび割れが特徴です。今回は白生餡から白餡を作るといふ、本格的な作り

方を教えていただきました。サワリという銅の鍋やイスパタという膨張剤も初めて聞く名前でした。

また餡を作る時に水分を飛ばし硬くなるまで火を入れる火取りあんのやり方など、プロならではの用語と製法に驚きつつ、「はい、ここは試験に出ます」という伊藤先生のユーモアに笑いが起きました。

講座は始終、和やかな雰囲気の中で進み、和菓子初心者にも分かりやすく教えていただき、伊藤先生と小松助手のきめ細かいご指導により、全員、見事にひび割れが綺麗な『栗



和・洋菓子屋さんで使用する専用の丸型の銅の鍋「サワリ」



「サワリ」は熱伝導率が高く 餡の味がまろやかで美味しくなります

時雨』が完成しました。

ここまでで参加者の皆さまは大満足でしたので、次の『月うさぎ』を作る気力が萎えつつありましたが、そこはさすが考えが深い先生です。練り切り餡や、中綿と呼ばれる中に入れる「こしあん」など、すべて事前にご準備いただいて、私たちはパーツを組み立てるだけの状態にしてくださるという見事なまでの万全な備え。おかげさまでやる気が復活！……とは言え、ほとんどの方が初心者のため、この作業がなかなか難しく、上手に練り切りや餡が包み込めず苦戦しました。こちらでも先生の親切なご指導の甲斐があり、皆様それぞれ個性のある「うさぎ」が出来上がりました。

学生さんが何ヶ月もかけて習得する技をたった2時間でやるのですから大変です。事前準備で本当に細かいところまで仕上げてくださったからこそと感激しました。

終了後、全員で記念撮影をしました。伊藤先生は大人気で、その後もたくさんの方が先生と一緒に写真を撮られておりました。

参加された皆さまは、自分で作り上げた和菓子を大切に箱に詰めて笑顔で教室を後にされました。

本当に楽しい講習会でした。

普段目にする和菓子が、このようにできていたと勉強になったことと、素晴らしい設備のお教室や本格的なお道具を使わせていただいて、ほんの少しだけ学生気分になりました。

このような講座を企画してくださった事に感謝申し上げます。

目白大学や短期大学部の公開講座は随時開催されており、今回は和菓子でしたが、様々な内容があり、大学や短大の卒業生でなくてもどなたでも参加できます。詳細は大学や短期大学部のホームページなどで募集しています。

ご興味があるジャンルが見つかりましたら参加されてみてはいかがでしょうか？

きっと新しい発見ができることと思います。



お茶目で優しい指導が魅力の伊藤先生



初心者でもこんなに素敵にできました

■ インフォメーション

桐 陽 祭

日 程

2026年9月12日(土)・13日(日)

9:00～14:00

■退職された先生方

長崎 怜生 教諭(理科)

渡邊 優 教諭(数学科)

★今年の桐陽祭にも、卒業生が運営する「ハンドレッドコーヒー」が出店いたします。ご来校の際、受付でお名前をご記入いただいた同窓生の皆様には、コーヒー無料チケットを1枚お渡しいたします。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

★母校へ足を運んでくださる皆様、ありがとうございます。安心してご来校いただけるよう、学園より卒業生の皆様へのお願いを掲載しております(30ページ)。ご理解とご協力をお願いいたします。

★学年会やクラス会の開催には、まず中心となる方のお力が欠かせません。同窓会もできる限りお手伝いいたします。「やってみようかな」と思われた方は、ぜひ勇気を出してご連絡ください。

★かつて多くの目白学園高等学校卒業生が進学した目白学園短期大学。今回は、2007年(平成19年)に創設された製菓学科をご紹介します。新しい目白の魅力をぜひご覧ください。

■編集後記

役員になり〇〇年・・・私が目白学園を語る上で円形校舎、坂道、白いブレザーは欠かせません。研心ミニレターに携わっていると私と同じく多くの方がこの3つのワードのどれかに思いを馳せている様です。本会報が近況を知るきっ

かけとなり次回再会への楽しみが広がれば幸いです。皆様のご健康と今後の交流を心より願っております。

大塚 千恵子

2024年度に目白研心高校を卒業し、それぞれの道に進んでから、あっという間に時間が過ぎました。現在、同級生の多くは大学3年生となり、私は専門学校を卒業し就職するなど、それぞれが新たな環境で日々を過ごしていることと思います。

私たちの高校生活は、コロナ禍という特別な状況の中で過ごした日々でもありました。当たり前だった学校行事や部活動、何気ない日常も、これまで通りとはいかない中で、多くの制限があったことを今でも覚えています。

しかし、そのような環境だからこそ、当たり前の大切さや、人とのつながりのありがたさに気づくことができた3年間でもありました。目白研心で過ごした時間は、それぞれの今につながる大切な経験になっているのではないかと思います。

また、今年は成人式を迎え、一つの節目を迎えた年でもありました。それぞれが大人としての自覚を持ち、これからの人生に向き合っていく時期にあるのだと感じています。

これからもそれぞれの場所で挑戦を続けながら、またこうして集まれる機会を大切にしていければと思います。今後も皆さんとともに歩んでいけることを心強く感じております。

小貫 信昭

目白研心中学校・高等学校同窓会 令和8年度 同窓会会報 新版第4号 (通号35号)

発行日：令和8年7月10日

発行：目白研心中学校・高等学校同窓会

住所：〒161-8522

東京都新宿区中落合4-31-1

電話：03-5996-3131

FAX：03-5996-3066

※本書を無許可で転写複製することを禁じます。

印刷：株式会社 愛甲社